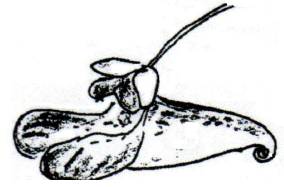


第3回ふれあい観察会

都川古道散策と丹後堰跡のツリフネソウ



太田慶子（千葉市）

日時：2009年9月26日（土） 9時～11時半 天気：曇時々晴れ
参加者：大人27名 千葉市環境保全推進課2名
指導員：赤木光明、岩澤とし子、太田慶子、田井中信子、田島正子、芳我めぐみ、
村杉久子、盛一昭代、和仁道大
観察コース：加曾利バス停→都川→安楽寺→庚申塔→自噴井→丹後堰公園

丹後堰あたりを「ふれあい観察会」のコースに・・・と言われて、さあどうしようと最初思いました。交通の便が悪く、車を止める場所もないところ。下見のために自転車であちこち回っていると、東金街道沿いの加曾利バス停に駐車場のあるお店がありました。そこをお願いしたらテーブルを置く場所などを借りられるのでは・・・と思い、下見前の打ち合わせの時に市の方に交渉していただいたら、快くOKが出てほっとしました。（当日はトイレまで貸していただいて本当に感謝です！）

集合場所そばの道は、かつては東金街道に出るメイン道路で、途中にある庚申塔には「南ハ大が（巖）寺道 左ハなりた道」とあるように、戦前このあたりの人々は千葉の町中に行かずに佐倉や成田に行くのが主だったようです（今は近くの和田新道がバス道路になっていますが、この道は戦前千葉駅に出征兵士を見送るために作られた道だそうです）。この周辺は都川総合公園（仮称）予定地であり、今後大きく変わることになりそうです。

ご存知のように、房総半島は南が高く、今でも北西に向かって沈んでいます。都川下流域はちょうど台地に滲みだした水が湧き出るところで、今でも「千葉の太郎」と呼ばれる200t/日もの水量を誇る（故斎藤正一郎氏の調査）自噴井が出ます。

丹後堰は、都川と支川都川が合流したところにあります。かつて布施丹後守親子が水の少ない海側へ、豊かな都川の水を回そうと私費で水路を掘った跡で、今では千葉市でも貴重な湿地となっています。毎年9月下旬にはツリフネソウの群落が見られるのですが、あまり知られていません。参加者の中にも、〈近くに住んでいても来たことがなくて、こんなに見られてよかった〉という感想が出るくらいなのです。確かにツリフネソウの盛り以外にはこれといってきれいな花は咲きませんが、ハンノキやヤナギがあるので、ミドリシジミやコムラサキの生息する場所なのです。

今日のコースは、近くの人でも〈ほとんど初めて！〉、〈こんな野草のいろいろある道があるなんて・・・〉という細くて入り組んだ道です。車が通れないサイクリングロードや家庭菜園のある道で、〈ヤーコンを見たのは初めて〉、〈へえ～これが綿の花？〉〈一度来ただけではとても歩けない・・・〉という声がいっぱい。そんなく自然いっぱい道を説明を受けながら歩いてよかったという感想をいただいた指導員が多かったようです。

ただ残念なのは、水田や畑の草だけでなく、-（たぶん抜いて捨ててあったのでしょうが）ミニトマトを持って帰る方がいらしたことです。このあたりは放棄田が多いのであまり気にしなかったのですが、やはり〈草や木などを勝手に取らないよう、最初に指導員が参加者に注意すべきだった〉というのが、終わりの会での反省事項でした。

